



祭りの始終を見届けてくれる町の鷹殿さん

A local steeplejack keeps a close eye on the festival proceedings

Washoi! Washoi!

The carrying of a portable Shinto shrine (*mikoshi*) is an important part of festival tradition in Japan. Groups of people dressed in traditional attire bear the heavy *mikoshi* on their shoulders, straining as they carry the gods and spirits through the streets. You will hear them chanting “*washoi! washoi!*” as they go – a word derived from the Japanese phrase meaning ‘to shoulder the gods’.

There are many *mikoshi* festivals each year in Matsudo. Some even welcome participation from the general public, so why not give it a try yourself? *Washoi!*



山車行列の太鼓は子ども達に大人気

Taiko drums mounted on festival floats are popular amongst the kids



まつりが 街を 回す

わっしょい、和っ背負い

お神輿を担いだことがなくても祭り囃子が聞こえてくると心がウキウキしたり郷愁を感じたりする人は多いでしょう。鎮守の神様を乗せたお神輿が町中を練り歩くと、神様の力で災厄を免れたり豊穡を得られたり出来るとは科学万能の現代に信じ難いかもしれませんが、大勢が気持ちを一つにして大きなお神輿を勢いよく運ぶ様子には何かが人の力を越えたパワーを感じるものです。お祭りには多くの人手が必要ですが、そこに集まる地域の人々が共に町の幸せを願う姿には地域コミュニティの基本を見る思いがします。

都市部で自治会・町会への加入者が少ないと祭礼行事も存続が難しくなりますが、幸いなことに都心に近い松戸では東京下町や近在に何組もある「神輿同好会」の人々が神輿を担ぎに集まってくれるので、何とか昔ながらの姿を留めています。この同好会の方々と各々の町会とは、長い所では何十年にもわたり祭礼の日だけのお付き合いですが互いに顔なじみ、お神輿を「担いでもらう」、「担がせてもらう」と互いの立場を尊重しながらの信頼関係で成り立っています。

お神輿を陰で支えてくれるのが「薦職（とびしょく）」の方々。日頃からの身のこなしで神酒所（みぎしよ：お神輿の格納場所）の設営やお神輿の組み立て、巡行中の安全確保などの力仕事を手伝いつつ見守ってくれます。

祭礼行事には昔からの色々な決まり事が多くあります。神事として尊厳を保つ作法、神様をお迎える特別な飾り付け、神輿という重量物を安全に巡行させるノウハウ、行事に対する寄付やその御礼の慣習など、現代のイベントにも通じるものですが、何よりも大切なことはお祭りの場に集まった人々の「和」とお互いの思いやりです。

古来、神様の前では誰もが等しく同じだとする考え方は「色々な人が居るけれどそれは承知で一つにまとまろう」と昔の人なりに個性を尊重しようとした知恵がかもしれません。

The MATSURI spirit runs deep



神様に街の変化を見ていただくのもお神輿の大事な役目

Two worlds collide as the *mikoshi* passes by the neon lights of a pachinko parlour



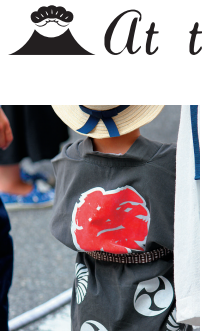
間もなくお神輿が高く差し上げられる、興奮の一瞬

Stirring the tanks; a moment of excitement



子ども達の熱狂を包む町の賛半囃は結構年季が入っている

Raising the next generation of *mikoshi* bearers



子ども達の熱狂を包む町の賛半囃は結構年季が入っている

Raising the next generation of *mikoshi* bearers

2017年10月発行

MATSUDO
PAPER

発行：MATSUDO PAPER製作委員会
写真：鈴木 善明 編集部
執筆：MATSUDO PAPER製作委員会編集部
協力：八嶋 提灯店

協力：松戸市文化観光国際課
翻訳：Erin Scott
イラストレーション：Maria Ermilova
Erin Scott
のざわふみこ
山本真衣子
NOMAD
お問合せ：MATSUDO PAPER製作委員会
松戸市松戸1340-3-302

地元の「熱」を感じてみる

忙しく過ぎていく日常。
たまには足を止め、自分の住むこの街の「熱」を感じにまつりへ行ってみませんか？
日々変化していく街の中の、そこで暮らす人々へ昔から受け継がれてきた歴史とパワーを感じられるはず。
ずっと変わらないもの、変わってきたもの、変わっていくもの。
日常の中の、非日常。
あなたの目には、まつりはどんな風にうつるでしょうか。

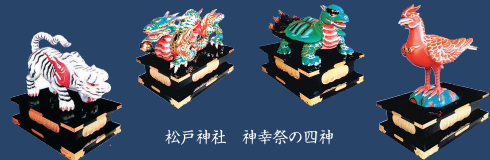
ここで紹介するのは、そんな地元のまつりのほんの一部。
見るもよし、参加するもよし、話を聞いてみるのもよし。
「熱」の感じ方は、あなた次第です。

松戸の主な祭礼一覧表

■三匹の獅子舞	3匹の獅子舞が3つの神社を渡り歩くように舞い踊る 松戸市の無形文化財
9月	日枝神社[和名ヶ谷] 起源は約400年前からとも言われ、松戸で最も古くから舞かれる獅子舞
10月	明治神社・風早神社[上本郷] 若手が舞う、躍動感溢れる勇壮な獅子舞。太刀を帯びた剣の舞は必見
10月	胡録神社[大橋] 赤い面を被った猿に触ることもでき、安産・良縁のご利益もある獅子舞で 最後は菓子投げもある

■神輿を出している主な祭礼

4月	常盤平さくらまつり	約2キロのさくらのトンネルの中を 練り歩く神輿と山車のパレードは圧巻
6月	秋葉神社〔松戸〕	松戸で一番早い夏祭り
7月	八坂神社〔小金〕	宮出しの前には、人形に息を吹きかけ、穢を祓う
	浅間神社〔小山〕	昭和三十年代の後藤直允作の美形神輿が見事！
10月	松戸神社〔松戸〕	連合渡御が行われ、周辺の町会神輿がいくつも 宮入りする様は圧巻。 ■10月18日が日曜日にあたる年だけ宮神輿を 中心とする行列に四神が連なる神幸祭が行われる



松戸神社 神幸祭の四神

10月	みのり台ふるさと祭り 70年以上続く、松戸で最も古い地域祭り [みのり台]
金山神社[根本]	常磐線を跨ぐ珍しい参道を練り歩く
白髭神社[日暮]	宮出しは花火の号砲とともに始まり、 駅周辺や踏切も渡り練り歩く
雷電神社[竹ヶ花]	お囃子やヒョットコも。 陸橋を担いで渡る威勢のよい神輿
矢切神社[矢切]	宵囃子、明囃子、五人囃子と続くお囃子では 子どもたちも活躍。大演芸大会もあり賑やか
王子神社[馬橋]	本殿再建中のため、来年度より再開予定
松飛台まつり[松飛台]	佐渡ヶ嶽部屋のある地域のお祭り。 力士と一緒に神輿を担げることもある

まつりの起源については諸説あり、また開催日時はその年によって異なることがあります

At the heart of the community

In Japan, local festivals (*matsuri*) are a symbol of the history and culture of a town. They also act as a gateway to the heart of the community - there is no better way to experience the local spirit than to participate yourself. The world over, festivals excel at bringing people together and promoting a sense of unity. Of course, Matsudo's many *matsuri* are no exception. The sights, sounds and smells are sure to ignite your enthusiasm and leave you feeling connected.





棒を付けた世話人達が神輿の行く手を導くように見えるが、先棒をしっかり押さえないと間子良く真っ直ぐには進まない
Keeping the mikoshi moving in a straight line is no easy feat - those pushing forth are guided by many a helping hand



カメラを向けるとそれは恰好を付けるというもの
Capturing a candid moment



お囃子に続いて幣束と提灯が神輿を先導するしきたり。担ぎ手は幣束より前に出てはならない
The mikoshi draws everyone in as it slowly progresses through the city

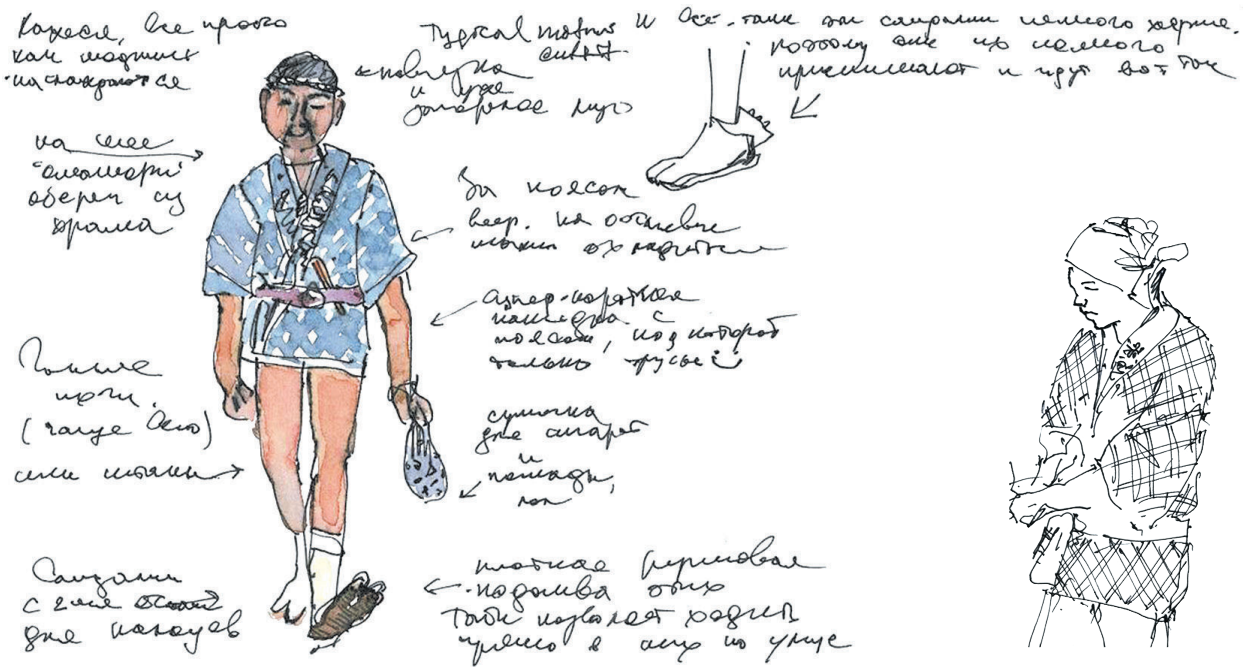
お囃子に続いて
幣束と提灯が神輿を先導するしきたり。
担ぎ手は幣束より前に出てはならない
The mikoshi draws everyone in as it slowly progresses through the city



地元の人になる

「松戸の祭りに参加するの初めて？ お神輿担いでみなよ」と地元の方が声をかけてくださり、祭りの中盤に初めてお神輿を担ぎました。皆で掛け声とリズムを合わせていると、独特の一体感が生まれ気持ち熱くなり、松戸の人になれた気がしました。私は松戸駅周辺でNOMADという民泊を運営していますが、松戸に住んでまだ一年ほど。松戸には、長い歴史がありながら、こうして新しい人やモノを受け入れる気質があり、それが魅力の一つだと感じています。民泊には、この一年で滞在する外国人観光客の方がぐんぐんと増えています。そんな人たちに松戸の魅力伝えたい。たとえばお祭りでお神輿を担ぐ人の中に外国人観光客も一緒にいたら素敵だと思います。インバウンドで松戸の街を地域の皆様と一緒に盛り上げていきたいと考えています。

NOMAD 運営 M.Y.



お祭りの提灯には「軒花(のきばな)」を付けるならわし
Festival lanterns adorned with nokibana flowers made from paper



お神輿の発着の合図は拍子木でバンツと決める
The wooden hyoshigi are clapped together to signal the departure and arrival of the mikoshi



MATSURI - a celebration for the senses

Mikoshi glistens gold,
don d-d-don don, whistle of the flute.
Strained expressions, full hearts
sweat beading down

Mikoshi glimmers gold
washoi washoi, clapping of the hands.
Purple bruises, proud smiles
beer on the breath

Mikoshi glows gold
ganbare ganbare, shuffle to the top.
Rowdy voices, great to see you
spirits' warm embrace

- Erin Scott



神様を先導するお囃子の屋台には「しめ縄」を張る

The music floats are said to guide the gods, and are decorated with straw festoons

Tenugui collection

